

2022 年度

北区 中津エリア

わたしたちの '生きた建築'発見プログラム



大阪市では、大阪のまちを1つの大きなミュージアムととらえ、そこに存在する「生きた建築」を通じて見えてくる、多様で豊かな都市の物語を大阪の新しい魅力として創造・発信する「生きた建築ミュージアム事業」に取り組んでいます。

その一環として、参加者ご自身が実際に講師と一緒にまちを歩き、自分なりに感じた生きた建築の魅力を、他の参加者に伝え、共有化するプログラムを実施しています。2回目の開催となる今年は、区役所に協力いただきながら、北区の中津エリアにある昭和レトロな趣が残る商店街を中心にまちあるきを行い、エリア内の活動拠点となっている生きた建築をお借りし、まちに精通した建築家を交えて意見交換を行いました。



	日程・場所	時間	内容	講師
まちあるき	2022 年 10 月 2 日(日) 集合:中津福祉会館 *2~4丁目を中心にまちあるきを実施	13:30~13:55	自己紹介 レクチャー	倉方俊輔 高岡伸一
		13:55~16:00	まちあるき	
		16:00~16:30	今後の進め方	
意見交換会	2022 年 11 月 20 日(日) 会場:西田ビル	13:30~15:20	発表	高岡伸一 香川貴範*
		15:20~16:10	意見交換	
		16:10~16:15	講評	

※特別講師 SPACESPACE 一級建築士事務所 代表

エリア

北区中津2~4丁目を中心にまちあるきを実施。参加者がそれぞれ発見した生きた建築は、それ以外(中津1,3,4 丁目他)にも点在。

参加者

9 名
大半が市内居住者。エリア又は、北区にゆかりのある方が多数。

中津で発見した、わたしたちの生きた建築（参加者の発表から）

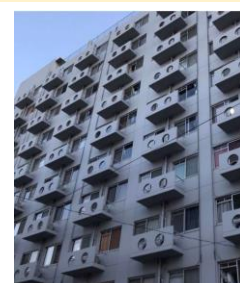
●建物の表情・デザインの視点

タイル



新しいものにはない、風合いや色合いが味。

室外機置場の表情



丸くくり抜いたデザインの室外機置場が、建物にリズムを感じさせる。

テント(オーニング)



色を見れば、何屋さんか分かると聞いたことがある。デザインもフォントもかわいらしい。

●まちの記憶・風景の視点

ポートレートが似合う風景



今撮影しておかないと、もう巡り会えないかもしれないと思う風景。

幼い記憶



全面タイル物件=ええとこの子、道路に面したところだけタイル=ちょっとええとこの子という感覚を思い出す風景。

敷地形状と建築



昔の土地の形質が現在も引き継がれ、多くの建築が先の尖った土地に、尖って建っている、ほかに見られない風景。

●使われ方の視点

長屋・路地の複合施設



長屋の良さを活かしながら、宿泊施設やショップが入り、地域の活性化につながっている。

生きたまち・中津



思い出の場所が1階喫茶店、2階ギャラリーに生まれ変わっていた。建築の使い方によって、人が集まり活性化につながる。

中津で生きる建築



出店の決め手となった建物のファサードが既存のまま残されており、お店の人が建物を大切にしている気持ちが伝わってくる。



「生きた建築」という言葉からの広がりを感じられた今回のプログラムでした。中津という街が、大阪駅から程遠くない距離にありながら、主体が消費や観光ではなく、暮らしにあるという個性が、歩くことによって見えてきました。さらにその上で、次第に変化している様子がうかがえ、同時に敷地形状や建築からは長い時間軸も浮かび上がります。建築が生きている有り様を、少し外から、複数の人の目で見つめることによる発見の多さが印象的で、今後も大事にしていきたいポイントです。

大阪公立大学教授／建築史家 倉方 俊輔 氏



中津やその周辺に縁のある方の参加が多かったこともあって、個性的な建築の発掘というよりは、この地域の地理的な特徴や時代の変化、人々の営みといった、「中津らしさ」が生み出す建築の魅力に着目した発表が多かったですね。著名な建築家の作品や個性的なデザインの建築がなくても、これだけ様々な視点で建築を楽しめるという発見は、今後のこの事業の取り組みに対して、大きなヒントを与えてくれたように思います。

近畿大学准教授／建築家 高岡 伸一 氏